

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2791800036		
法人名	ウエルコンサル株式会社		
事業所名	グループホーム ウェル浪花 (ユニット1)		
所在地	〒550-0024 大阪市西区境川1丁目1-15		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2791800036-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2791800036-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今年度の施設目標は「入居率100%の達成・維持・継続」です。新しい入居者様の獲得の為に接客、館内の清掃を積極的に行い、満床の維持・継続の為に既存の利用者様の退居をなくすためにインシデントを挙げ、またスタッフ間のOJTを積極的に行い、特に「気づき」を意識する施設になれるように目標に掲げました。いまだ達成されていませんが、目標に掲げ続けることによってスタッフの意識付けを行っています。利用者様には「出来ること」をして頂き、「される喜び」より「してあげる喜び」を感じて頂けるように積極的にお手伝いをして頂いています。そういう姿を写真に撮って家族様にお伝えすると家族様は喜ばれ、またかつての姿を思い出されいろんな話をして下さり、その情報を共有して新しいケアに結び付けることしております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは理念の一つに「ご自分らしい安心した生活をお手伝いします」と謳い、介護計画の作成や事故防止対策を考える際には利用者の安心した生活に繋がるサービスの提供を大切に考え話し合っています。新型コロナウイルス感染症が流行し一年以上経過し、利用者は外出や面会、地域交流が難しい中、以前からの習慣を楽しめるようホーム内に神社に見立て絵馬を作成したり、毎日個別や全体でレクリエーションを行う他、食事作りや掃除等の家事にも利用者にもできることに携わってもらい力を発揮して生活を送れるよう支援しています。家族には日々の様子を写真や手紙で伝え、電話やSNS、メールでのやり取りを行い、時には家族の利用者を心配する声から動画で歩行状況を見てもらう等コミュニケーションを図り安心に繋がるよう取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下の通りです 1. ご自分らしい安心した生活をお手伝いします 2. 入居者様の尊厳を守ります 3. 地域との連携に努めます	法人の理念の基作成されたホーム独自の理念は、リビングや廊下の見えやすい所に掲示し、朝礼で唱和し日々意識できるようにしています。中でも利用者の安心につながるサービスを提供することを大切に考え、介護計画の作成の際や事故防止対策を考える時には安心した暮らしに向け話し合うことで理念の実践にもつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町会への入会は継続しております。コロナの為、毎年参加しておりました新年互礼会や盆踊りは中止になり、参加できませんでした。	以前行っていた地域との交流はコロナ禍になり中止した状況が続いていますが、回覧板が回ってきて地域の情報を得たり、先日は町会長や民生委員等へのあいさつ回りを行いホームのことも伝えています。またボランティアの予約も継続して行っており、再開できる日に向けて2～3か月ごとに電話で連絡を取り合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方に参加して頂き、質問・相談を受付、お答えするようにしています。(コロナの為、書面の郵送にて取り交わす形で行っている)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しています。今年はコロナの為ホームでの開催が出来ず、書類を郵送で取り交わす形となっています。地域包括支援センター、町会長、ご家族宛に資料をお送りし、書類にて質問を頂き、意見交換を行っています。	運営推進会議は2か月に1回、家族や町会長、地域包括支援センター職員の参加メンバーに利用者や職員の状況、研修や事故、活動を書面で資料を作り郵送し、意見を募っています。新型コロナウイルス感染症流行が収束した際には直接意見交換をする機会として再開したいと考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、その際にホームの現状を報告し、またアドバイスを頂いています。(コロナの為、書面の郵送にて取り交わす形で行っている)	年に1回一年分の運営推進会議の報告を行い、日々の注意喚起や情報の発信はメールで届くことが多く職員に周知しています。コロナ禍にはマスクや手袋が市から届いたこともあります。研修についてはリモートセミナーの案内があり今後参加する予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束とは」を正しく理解する為に管理者は内部・外部研修に積極的に学び、その内容を職員に面談、OJTを行い説明、教育しています。道路に面した立地であり、施錠は行っています。	年に2回身体拘束についての研修を行い、運営推進会議の際に適正化委員会として拘束を行っていないことの確認をしています。管理者は会議等でも拘束に繋がるような事例を伝え、日々の中で利用者を止めてしまうような言葉かけがあれば互いに注意し、玄関やユニットの出入り口の施錠はしていますが散歩に行けない中ベランダに出る等拘束感のないよう支援しています。センサーの使用は家族の同意を得て安全に移動するために使用し定期的に必要性を検討しています。	

グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待の内容を正しく理解する為に管理者は外部研修等に参加、学び、その内容を職員に面談、OJTを通じて説明教育するよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面談、OJTを通じて職員に説明・教育を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書を文書で示し、理解を確認しながら説明を行っています。即答できない場合はお時間を頂き確認してお答えさせて頂くこともあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は利用者との日頃の対応・会話を通じて苦情・不満などを汲み取るように努め、ケア会議の議題として利用者の思いに添えるようにしています。家族の声も真摯に受け止め取り組んでいます。契約時苦情受付窓口についても説明しています。	利用者から食べたいものが聞かれた際は献立に反映する等日常の会話で意見や要望を聞くようにしています。家族からは面会ができない中日々の様子を写真や手紙で伝え、電話やSNS、メールでのやり取りを通じて意見や要望を聞いています。家族の利用者を心配する声から動画で歩行状況を見てもらう等コミュニケーションを図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の勤務の様子や言葉から思いや考えを汲み取り、ケア会議の議題に取り上げたり、面談を行い業務やケアに反映できるよう努めています。	日々職員は意見を出しやすい雰囲気があり、管理者は会議の議題とするものか速やかに改善するものかを判断し話し合っています。毎月ユニットごとにケア会議を行い、法人で行われるリーダー会議の報告で法人の方向性や取り組み等を伝えたり、個別の利用者のケアや業務改善について検討しています。買い物や経理等の担当で職員は役割を担ったい行事等を主体的に行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の勤務の状況を把握し、給与体系の見直しや、技能実習生の勤務により職場環境の改善に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、面談、OJTを通じて職員のレベルアップに取り組んでいます。ケアマネの更新、認知症介護実践者研修、管理者研修にも会社の補助により受講可能。		

グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月一回のリーダー会議に参加し、グループ内の他の事業所のリーダーと話す機会が設けられていて情報交換しています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている内容について本人のペースで語って頂き、傾聴し、また家族様からもご意見を聴きご本人の要望を理解するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や問い合わせの段階で家族様の困っている内容を本人のペースで語って頂き傾聴し、ご本人の要望を理解するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談がある時は殆どがグループホーム利用が前提ですが、その方がグループホーム利用が適切かどうかを冷静に見極めるべく、相談者の話を傾聴しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が泊めて貰っているのではなく、ご自分の家で生活していると安心して頂けるよう家庭的な環境を作り、職員は時には家族の様に接し職員と入居者との関係を築くよう心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより1ヶ月に1回職員からの「一言通信」という形で健康状態と生活の様子を写真を添えて送付しています。系列の他のユニットの様子とも比較できるように「笑顔だより」も送付しています。面会の時の談話やなかなかお会いできない方には電話連絡行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要な通院介助の支援は行っていますが、毎月楽しみにされていた買物や外食などの外出支援は、コロナの為にできていません。	コロナ禍前にあった友人知人の来訪や家族との墓参り等の外出は行えていない状況が続いています。馴染みの人や場所との繋がりはかかりつけの病院への通院の支援をしたり、親戚等から年賀状や手紙が届く方もおり返事は書くことができませんが職員とその方との関係等の話をし懐かしんでいます。	

グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方向士が食事や会話等が出来る様座席の配置を工夫したり、日常生活の中で関わって頂けるよう声掛けし、コミュニケーションが難しい方の傍には常に職員が間に入り、上手にコミュニケーションが取れるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば退居後でも届いた郵便物は家族様にご連絡を差し上げて対応しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴を尊重しご本人の思いや意向を拾い出し、日々のケアに生かしています。居室を自身の愛着有るものを飾るなどなじみの環境づくりにも取り組んでいます。	入居時に自宅や施設、病院等生活しているところを訪問し、生活歴や趣味嗜好、一日の過ごし方等を聞き、また担当だったケアマネジャーからも情報を得て希望や意向の把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で職員が気付いたことや様子を記録に残すように努め、把握困難な方の思いは申し送りやケア会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族と本人に面談して生活歴や希望を十分アセスメントし、その人らしい暮らしの提供が行えるように情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身の状態を把握する為に一日の生活の中での様子、会話から変化に気づき、ケア会議等で話し合い、適切なケアの実践を行えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援の評価を行い、その方の状態に適切なケアの検討をご本人様や家族様の思いを聞いた上で、職員とケア会議で話し合い改善しています。	本人や家族の思い、アセスメントの基カンファレンスを行い介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い利用者の状況が大きく変わる場合は随時見直しを行い、変化のない場合は6か月毎に見直しています。見直しの際には評価と再アセスメントを行い、家族の意向を確認し医師や看護師に意見を聞きカンファ連を行っています。また日々の記録は介護計画を見ながら記入できるようにし、実践状況の記録に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとにケアを実践し、日々の様子を個別に記録し情報を共有しながら、定期的及び改善が必要な時はカンファレンスを通して見直しを行い実践しています。		

グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の希望で他の施設、特養を申込みをされている入居者様もいることで特養から情報提供を要望される時はその都度お送らして頂く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、今まで協力して頂いていた歌やバンド演奏などのボランティアの利用は行えていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/月、内科・診療内科のかかりつけ医の訪問診療を受診しています。整形外科・皮膚科の受診が必要な場合はご家族様に連絡をし、了解を得て受診を行っています。歯科については必要時に訪問歯科受診を行っています。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在は全員がホームの24時間連携体制である協力医に変更しており3か所の医院から選んでもらい月に2回の往診を受けています。また専門医へは家族が行けない時に職員が受診支援し、利用者の状況に応じて必要な方は歯科や皮膚科、精神科の往診を受ける事も可能です。また週に2回看護職員が健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼任の看護師を配置しており、介護者、看護師の連携から両方の気づきを確認しケアに反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様を交えて、往診医や看護師、管理者、病院の担当者と現状や予後話し合い早期の退院を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定しているターミナル状態が近づいた場合、関係者によるカンファレンスを行い書類作成して取り組んでいます。往診医は24時間体制での対応をしています。	入居時に重度化対応指針にそって重度化した場合にホームで支援できる事やできない事を説明しています。実際に重度化した際には医師から家族に説明してもらい看護師や職員も加わり話し合い方針を決めています。以前には家族の協力を得ながら医療との連携を図り看取り支援の経験もあります。また年に1度看取り支援についての研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全ての職員に対し定期的にOJTによる訓練・確認を行っています。		

グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所に災害対策の対応手順を掲示すると共に年2回の避難訓練を行っています。スプリンクラー設置及び消防署直通の電話を設置しています。	年2回昼夜を想定して通報や初期消火、可能な利用者には階段も使用して避難誘導の訓練を行っています。今年度は消防署の立ち会いがありませんが、代わりにユーチューブでの配信があり消火器の使い方等を学んでいます。3日分の水や食料、カセットコンロやランタン等を備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のペースに合わせた声掛けをしています。認知症ケアの研修を行い、人格を尊重し個人の個性に合わせて共感した対応を行っています。	介護倫理や認知症ケア、接遇マナー等の研修を行い、尊厳を大切にされた対応を心がけ、言葉かけ等に対して利用者の反応や返事を待ってからケアを行うようにしています。利用者の敬語での対応が望ましいと考えていますが個々に合わせてわかりやすい言葉かけに配慮し、不適切な対応があれば都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を楽しく感じて頂けるように起床時や入浴後の洋服選び、食事の献立の希望、アクティビティーの選択等、自己決定が出来るような声掛けを行うように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先の支援を心掛けています。職員側の都合や共同生活での制限を感じられる事のないように、その人らしさを考えた生活支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみをと整える時間を設け、おしゃれを楽しんで頂いています。又個人の希望を基本にしアドバイスや支援を行っています。2カ月に1回、訪問理美容も利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考えた上で食べやすさ見た目の良さの工夫、入居者の好み、行事食、誕生日食等、毎日の食事にメリハリをつけています。一緒に調理や片付けを楽しむことも重要と認識しています。	食事は主にネットスーパーで買い物をしてその日の担当者が献立を立ててホームで手作りし、利用者にも食材を切る等できることに携わってもらっています。誕生日には好みのものを聞いたり、ひな祭りのちらし寿司等の行事に合わせて献立に配慮し、ファーストフードやピザの出前を取る等、食事が楽しみとなるよう支援しています。鏡開きの際のおしるこ作りを機に以前作っていたことを思い出した利用者がいたり、時にはホットケーキやケーキのデコレーション等のおやつを手作りしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態や体重増加を考慮して調理に反映しています。嚥下状態の悪い方にはミキサー食、栄養状態の悪い方には栄養補助食品を提供しています。水分摂取は時間を決めずこまめに行っています。		

グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。口腔内の清潔保持を図り、ADLに応じた声掛け・支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握し、失禁を減らすようにトイレ誘導行う等の支援を行っています。	排泄チェック表を使用しパターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。重度の方も日中は二人介助でトイレに座るよう支援し、支援方法やパッド等の排泄用品の種類等は申し送り共有しています。排便のタイミングを把握し失敗が減ったり、退院後は元の状況に戻れるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んだり、ヨーグルトを食べて頂いたりしています。体操等で運動量を増やし腸の活動を促進出来るように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の入浴時間や回数に添えるよう準備しています。安全に楽しんで頂けるよう入浴の順番、希望もお聞きし、見守り、同性介助、脱衣室や浴室の戸を閉めプライバシーにも配慮しています。季節に合わせた入浴も楽しんで頂いています。	入浴は週に2回午前中の時間帯を基本としていますが、希望により回数を増やしたり午後入浴にも対応でき、ゆっくりと会話をしながら個々のペースで入ってもらっています。拒否される方には言葉かけを工夫し無理なく入ってもらい希望や状況により同性介助も行って頂いています。入浴剤を使用したり好みのシャンプー等を持参する方もおり、それぞれに入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活活動を促し適当な運動量の確保を維持し(日中自由に休息して頂ける支援も行っている)スムーズな入眠が出来る様生活リズムを整えていく支援を行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現病を把握した上で薬の内容の理解を深め、医師の指示通り服薬して頂けるように支援しています。症状の変化にはその都度医師・看護師に連絡行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人との会話や生活歴思いを汲み取り、洗濯たたみ、洗濯干し、取り入れなどのお手伝いを行っています。手作業の好きな方には材料を用意し、個々にアクティビティを選択し行って頂いています。		



グループホームウェル浪花(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族様と行っていた、散歩、買物、季節に応じたピクニック、外食、などはコロナの為全て行えていません。	コロナ禍が一年以上続き町中にあるホームでは以前に行っていた散歩や買い物等の外出はできなくなっています。広いベランダでの外気浴で気分転換を図ったり季節を感じてもらったり、外出が再開した時のためにホーム内の廊下を歩き下肢筋力を維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している方には支払い時に職員がお手伝いし、一緒に管理している。(買い物に行けていないため、支援行えていない)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次ぐお手伝いしている。使い方が分からないと言われた時はお手伝いさせて頂いている。手紙や便箋や切手を準備し投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東向きの窓があり、朝日を浴びるようにしています。ご入居者様同士自由に談話やテレビを楽しめるように家具の配置も工夫しています。	共用空間は利用者が作成した塗り絵や季節を感じられる飾りつけをしたり、時には生花を飾ることもあります。テーブルの配置は利用者同士の関係性や感染症予防のため向き合わないように配慮しており、リビングにソファを置き過ごす場所を選べるようにしています。換気を頻回に行い毎日の掃除は利用者にも手すり拭きやモップ掛けに携わってもらいながら行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にも一息つける場所やお気に入りの座席を必要とする時にはテーブルや椅子を移動するなど居場所作りに工夫しています。気の合う者同士に座席の配慮を意識しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた物を持って来て頂くようお勤めし、馴染みの環境で生活できるように支援しています。	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように説明し、棚やタンス、椅子、テーブル、大切にしている仏壇等持参したものを本人や家族と相談し配置しています。家族や本人の写真やぬいぐるみを飾ったり、インコを飼っている方、歌の好きな方がCDを聞いたり写経や社説を書き写すなど、思い思いに過ごしています。可能な利用者と一緒に掃除を行い清潔保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全な環境になっています。トイレや個々の居室の表札を掲示し、解りやすい様にしています。		